

平成 18 年一番茶実収報告

京都府立茶業研究所

1. 摘採日

仕立て法	本年	前年	前5か年	平年
自然仕立て	5月10日	5月7日	5月4日	5月6日
弧状仕立て	5月9日	5月6日	5月5日	5月6日

注) 平年は、平成6年～平成17年までの12年間の値

2. 生葉収量(kg/10a)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	収量	指数	収量	指数	収量	指数
自然仕立て	532.5 ± 73.1	97	558.4 ± 74.1	101	550.6 ± 78.6	100
弧状仕立て	264.4 ± 42.5	72	364.8 ± 60.7	99	368.1 ± 67.4	100

3. 百芽重(g)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	重量	指数	重量	指数	重量	指数
自然仕立て	42.1 ± 2.1	87	42.3 ± 5.7	88	48.4 ± 5.8	100
弧状仕立て	32.3 ± 9.0	61	79.5 ± 15.1	149	53.2 ± 9.2	100

4. 新芽数(本/m²)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	新芽数	指数	新芽数	指数	新芽数	指数
自然仕立て	455.4 ± 57.3	100	531.8 ± 74.7	117	454.2 ± 68.7	100
弧状仕立て	1630.0 ± 395.4	114	971.7 ± 170.0	68	1428.0 ± 295.8	100

注) 自然仕立ての数値は、20cm幅帯摘みの新芽数

5. 出開き度(%)

仕立て法	本年	前年	前5か年平均
自然仕立て	36.7	46.1	47.1
弧状仕立て	36.1	41.0	49.4

6.概要

(1)摘採期

本年の一番茶摘採日は、自然仕立て園が5月10日、弧状仕立て園が5月9日となり、前年と比べ3日遅く、前5か年平均より4～6日遅れた。

(2)生葉収量

10a当たりの生葉収量は、自然仕立て園が533kg（前5か年並み）、弧状仕立て園が264kg（前5か年比少ない）であった。収量構成は、芽数型の傾向となった。

(3)病害虫の発生状況

一番茶新芽への病害虫の発生はチャノホソガ、ゴマフボクトウ、クワシロカイガラムシがやや目立った以外は比較的少なく、実害はなかった。

(4)周辺茶園の状況

各地とも茶芽の生育はやや遅れる傾向となり、摘採開始期は平年比遅れた。

収量性については、全般的に芽立ちが荒く、前年比やや少ない傾向となっている。

病害虫に関しては、全体的に発生は少なかった。